

第13回 全国大会・研究発表大会 若手学生奨励賞 受賞記

同志社大学大学院 臼井由樹

このたびは若手学生奨励賞という素晴らしい賞を授かり大変光栄です。また、論文を査読しご選考くださった先生方、当日、神奈川大学での発表時に鋭いご質問や今後の研究の方向性を示してくださった皆様、この様な素晴らしい機会を与えてくださった皆様に心から感謝申し上げます。

本論文（「主観的評価からみたソフトウェア技術者の生産性比較～業務位置づけからみた日本のソフトウェア技術者の現状～」）は、我が国のソフトウェア産業の生産性の低さの要因を、ベンダ SE と社内 SE を分類することにより、分析を実施いたしました。その結果、日本のソフトウェア技術者が置かれた現状を、システム開発プロセスさらには産業構造の視点を取り入れることにより、今後のソフトウェア産業の生産性向上の要因を示唆したものであります。

今後、IoT や AI などにより、プロダクツから経営戦略まで、幅広く IT 技術が普及するであろうと考えられます。その中で、我が国が各産業における競争優位性を確保するためには、ソフトウェア技術者の生産性向上は必須であると考えています。本論文が、その一役になればと考えています。しかし、現状の分析では、電機連合に属する大企業の分析に留まっているのが現状です。そのため、ソフトウェア開発の中・下流を担当する大多数の技術者の分析まで踏み込んでいません。今後の課題として中・下流工程を担当する企業及び技術者も取り入れたソフトウェア技術者の生産性分析が必要であると考えています。この分析を行うためには、一大学に留まらない産学官にまたがったフレームワークが必須であると考えています。

また本論文は、JSPS 科研「17K0382」：「職務で働くプロフェッショナルのキャリア発達の促進と停滞」及び独立行政法人情報処理推進機構 委託：（ソフトウェア工学分野の先導的支援事業「日本のソフトウェア技術者の生産性及び処遇の向上効果研究：アジア、欧米諸国との国際比較分析のフレームワークを用いて」）によるお力があったからこそ、実施できた研究であります。両研究を行った、関西外国語大学の古田克利先生、同志社大学の中田喜文先生に、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

今後のソフトウェア技術者の生産性向上の取り組み・研究がますます発展することを願う受賞記を締めくくらせて頂きます。

同志社大学大学院 理工学研究科
情報システム学研究室 臼井 由樹